

いこいの村 芦田ヨイシ

題字 梅の木寮（従来型）

2013年（平成25年）5月20日発行

第372号

発行責任者

いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

両丹聴覚障害者協会創立 60周年記念パーティー



60年分の思いを若い世代へ！



兄と妹
仲良く♪



高倉さんのおかげで今があるのよ!!

ゴールデンウィークが始まった4月27日、福知山市で両丹聴覚障害者協会創立60周年記念大会が開催されました。梅の木寮からは利用者4名が出席。なじみの方や離れて暮らす家族との再会を喜び、おいしい料理に舌鼓を打ったりと楽しい一日でした。

第一部記念式典のパネルディスカッションでは、今後の活動の中心となる若者への引き継ぎや育成が大切だとのお話がされました。年長者は過去の活動をふりかえってうなずき、その思いを受けて責任を感じる若者の引き締まった顔が印象的でした。

一転して第二部パーティーでは、アトラクションやごちそうで賑やかな雰囲気。聴覚障害者協会だけではなく関係団体や法人も一緒になって盛大なお祝いになりました。

（いこいの村・梅の木寮

従来型 鉄本 千尋）

地域の方と歩んだ10年

デイサービスセンターでの年輪喫茶の終了

いこいの村・梅の木寮の利用者は週に2・3回デイサービス利用者の方々へ心を込めて喫茶の提供をしています。デイサービスセンターが5月に移転するに伴い、2003年(平成15年)から10年間続けてきた喫茶の提供を終了します。



デイサービスセンターでの喫茶

きっかけは利用者自治会「年輪の会」で、2004年(平成16年)に増設するユニット棟の資金集めの一役を担いたいという思いがあったことからです。コーヒーの豆ひき機を寄付でいただいたこともあり、「コーヒーを作ろう!」ということになったのです。デイサービスの利用者からも「コーヒーを出してもらえたら嬉しい」との声をいただき、「喫茶年輪」がスタートしました。開始から一年で100万円もの売り上げがあり、その売り上げはユニット棟増設のためにカンパしました。

「うー!」と喜んでくださいました。森さんと松田さんは見学の方々へのあいさつに「年をとっても仕事したい。それで喫茶を始めました」と話されました。見学の方々からは目を丸くして「すーいわあー」感嘆の声があげられました。喫茶を通して聞こえる人と聞こえない人との交流もできました。



梅の木寮の利用者の中には盲ろうの方や車いすの方もおられます。コーヒーの豆挽きや売上の計算など、それぞれに合わせてできることをします。「給料」支給日には、みんな

なで何を買おうか話が盛り上がります。障害があっても高齢になっても仕事ができることの喜びを感じていました。



デイサービスセンターの移転

新しくできるデイサービスセンターの移転先はとくらの家の隣です。梅の木寮から通うには長い坂道を歩かなければなりません。喫茶開始から10年がたち、メンバーは最高齢の98歳から始まり、91歳、89歳、88歳...と年齢が高くなっています。「手が痛い」「腰が痛い」と高齢ながらも頑張っています。これでしたが、メンバーたちの身体の不調が重なり、喫茶を続けることが難しくなってきました。

相談を進めています。「お寿司が食べたいな」「暖かくなってきたからウッドデッキで食べたいね」と話が盛り上がりま

す。デイサービスセンターでの喫茶の仕事はなくなりますが、今後も行事や見学者への喫茶の提供は続けていきたいと思っています。体調と相談しながら、高齢になっても仕事をしたい、多くの人々と交流したいという利用者の思いを大切に一緒に頑張っていきたいと思います。



行事や見学の方への喫茶の提供は続けていきます。これからもよろしくお願ひします。

(いこいの村・梅の木寮 従来型 波多野 文佳)

近々・親し々・心強々を！

利用者見学会

完成間近になった4月20

日・27日の2日間、デイサービスの利用者を対象に工事現場見学会を開催しました。

「家のようなゆったりとくつろげる空間になっています。窓は大きく開放的で、部屋全体が明るいです。また、床暖房が完備しており、冬は暖かく過ごしていただけます」と工事長の安達様からの説明を受けました。その後、テラスから中を見渡すと、松がふんだんに使っており、木の香りが外にまでしてきます。

「長生きさせてもらって、こんなきれいな所に行けるんやなあ」

「広い庭やなあ。ここでゲー



トボールができそうやなあ

「畑もできそうやなあ。自分

らで作った野菜をお昼ご飯で

食べられたら、ええなあ」

「ケアマネさんやヘルパーさ

んの部屋もあって、いつでも

会える」

実際に見ていただき、利用

者の期待がどんどん広がって

いきます。

『支えているようで
支えられている』

身を乗り出して生き生きと

話される様子を見ながら、こ

の思いを一つ一つ叶えていく

のが私たちの喜びだと実感で

きました。

これからも地元の皆様と共

に、また新しい拠点として地

元に根付いていけたらと思い

ます。

地域の皆様と共に歩んだ

20年の歴史の中で、それぞれ

の昔を知る利用者といこいの

村との長い付き合いが強い

安心感につながっています。

新しい歴史と一緒に太いき

ずなで作っていきましょう。

(高齢福祉部 介護支援係

芦谷 ひとみ)



綾部東部デイサービスセンター
綾部東部在宅介護支援センター
綾部市東部地区包括支援センター
施設長 今中 智子

綾部東部デイサービスセンター・綾部東部在宅介護支援センター・綾部市東部地域包括支援センターが2013年(平成25年)5月20日、口上林小学校運動場跡地にて生まれ変わります。

工事着工から完成までデイサービスの利用者の皆さんと一緒に工事現場を見学したり、壁の色を決めていただくなど「私たちのデイサービスセンター」づくりに参画いただきました。

そして建設にあたって大事にしてきたことは、「近々・親し々・心強さを兼ね備えたセンター」づくりです。

綾部東部地域の課題の一つにリハビリテーションの施設がないことがありましたが、4月から舞鶴赤十字病院からリハビリの先生を派遣いただき、綾部東部デイサービスセ

ンターでリハビリテーションを開始しました。地域の皆様からもご希望があれば、リハビリ相談をお受けします。

今まで坂の上であり、「遠かったいこいの村」でしたが、距離だけでなく、これからはより皆さまの近くで「いつでも相談に行けるセンター」を目指します。地域の皆さまに集っていただく部屋も準備しましたので、お気軽にお立ち寄りいただける場所として活用ください。

6月8日には見学会を予定しています。一緒にセンター完成をお祝いいただければ嬉しく思います。どうぞ皆様お越しください。



今回の掲載は4月1日～4月30日受付分です。

*別途 冷暖房費 1回300円